

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0192902716		
法人名	株式会社北海道クオーレ		
事業所名	グループホームせせらぎ I A棟		
所在地	旭川市永山4条4丁目9番1号		
自己評価作成日	令和4年6月15日	評価結果市町村受理日	令和4年9月28日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月に一度、協力医療機関の東旭川病院へ通院し体調の把握に努めている。それ以外にも体調不良があった時は受診出来るように連携を取っている。24時間看護師と連絡が取れるようになっており深夜でも指示をもらったり、緊急時には施設に駆けつけてくれる体制になっているため、利用者様や職員が共に安心して過ごすことが出来る。並びに最期までホームで自分らしく暮らしたいと要望がある方にはターミナルケアも行っている。町内の方が運営推進会議に参加され、緊急時には協力いただける体制が整っている。地域の憩いの家の鍵を預かることでほぼ毎日地域の方が施設に来られるため、職員と顔見知りになり自然と関係性を深めることが出来ていて地域とのつながりを絶やさないようにしている。外出は利用者様の体力に合わせて近所を散歩したり、季節ごとに車で遠方にも出かけるように努めて楽しみ事のひとつになっている。食事も季節の行事やイベントなどに合わせて献立を作り、月に1度はレクリエーションとして共に作り食べる楽しみも感じてもらえるようにしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0192902716-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0192902716-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット		
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401		
訪問調査日	令和4年7月14日		

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、旭川市内の住宅地と商業地の混在する永山地区に位置し、国道や大通りに最寄り交通の便に恵まれ、また大型スーパーやコンビニ、ドラッグストア等、生活の利便性に富んでいるが静かで落ち着いた雰囲気もある環境下に立地している。開設は平成15年だが令和3年に運営母体が変更となった経緯がある。建物は平屋で、居間兼食堂を中心に居室がL字型に広がり、両ユニットに包まれるように庭が整備され、家庭菜園や四季の花々を提供している。また介護現場として利用者や介護員に添った建築構造の造りを目指し、車いすでも使用可能なリフト、介護員が動ける幅広い浴室等、利用者には安心、介護員には安全を基本として設定している。医療面でも充実しており、協力病院の診察の受け入れ態勢、24時間看護師とのオンコール連携、緊急往診等々で安心出来る医療を提供している。また、利用者や家族の希望に添って終末期介護に取り組み、本人が望む最後の時を支援している。今後も更なる尽力に期待したい。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を作成し、事務所に掲示している。朝の申し送り時に唱和し実践につながるように意識づけしている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の4項目の理念を、申し送りで唱和し共有化を図っている。また、事業所内に掲げて内外に示し、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	平時は近隣の保育園児の来所、敬老会等の町内会行事に参加するなど交流の機会を得ていたが、今年度はコロナ禍の影響を受け、回覧板にて地域の情報を共有している。	開設後18年が経過し、地域住民に浸透している。通例では、お祭りや街路清掃、色々な場面を通じて、地域に溶け込んだ関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の相談窓口を設け、地域の方々の質問、相談に応じられるように努めている。運営推進会議の書面開催により、行事報告やヒヤリハット報告を配布し、認知症への理解を深めていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	平時は運営推進会議を開催し市の職員や町内会の方々に参加いただき活動報告し、質問・意見をいただき、サービスの向上に活かしている。今年度はコロナ禍のため書面開催として対応している。	コロナ禍により、書面や電話による開催を強いられているが、通例では町内会役員や家族、包括センター等の構成で定期的開催され、行事の報告のみならず、事故報告も随時提出される等、意義深い会議となっている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	平時は市の福祉保健部に運営推進会議への参加を要請したり、会議録を送ったり、地域包括支援センター主催の会議に参加したりして指導や助言を得ながら協力関係を築いている。今年度はコロナ禍のため、文書での連絡を取っている。	制度の解釈や運営について適時指導、アドバイスを受け、介護保険の更新や区分変更の申請時に各種情報も交換しながら、信頼性の高い関係継続に努め、日頃からの協力体制を維持している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	2か月に1回の職員全体会議で身体拘束廃止委員会を開き、緊急やむを得ない場合の3条件を満たしているか、検討しているが、現在は該当者はいない。	身体拘束廃止委員会を設置し、指針を定めて2ヶ月ごとに開催している。事例は現状の介護内容の検証や事例検討等々、議事内容については、都度職員に周知徹底するなど、拘束も抑制もない介護に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	2か月に1度の職員会議で虐待防止委員会を開き、日常のケアの中で虐待がないか検討し、防止できるように意識を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平時は管理者や職員に外部研修に参加し全体会議で情報を共有し日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び個々の必要性を関係者と話し合いしているが、今年度はコロナ禍のため行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者より十分な説明をし、利用者や家族がわからないこと等無いか尋ね、不安が残らないように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は入居者がいつでも意見し要望が表出できるように傾聴することに努めている。ケアプランの更新、面会時にも家族と情報共有を行い、指摘があれば速やかに対応している。	お正月やお雛様、誕生日会などの行事の報告を兼ねて、せせらぎ便りを発行しており、写真も多く掲載し好評を得ている。また外部評価機関を通じて、サービス満足度のアンケート調査も実施している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回の全体会議やユニット会議、カンファレンスで職員の意見や提案を聴き運営に活かしている。	何でも何時でも話が出る職場になるよう日頃から風通しの良い関係を意識し、提案があれば介護現場で検討する等、より良いサービスになるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長や管理者は個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準ややりがいなど向上心を持って働けるよう努めている。休み希望も取れるように調整している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	平時は職員の経験や能力に応じ外部研修に参加する機会を設けており、資格取得の勧めや補助を行っている。また質の向上を図るため、施設内研修を行い、働きながら職員を育てるよう取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は、コロナ禍のため、リモート会議への参加等で同業者と交流する機会を持つようになり、サービスの質を向上させていくことに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と面接を行い困っている事、不安なことに耳を傾け、本人が安心できる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談や入居時に本人の現状について家族の困っている事、要望等を十分に聴き取り不安が解消され、早期に信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族、医療機関、介護事業所等から情報を頂き、初期のインテークで問題点を拾い出し、その解決につながる今必要な支援をどのようにするかを見極め、職員間の意見も聴きながら他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人、家族、医療機関、介護事業所等から情報を頂き、初期のインテークで問題点を拾い出し、その解決につながる今必要な支援をどのようにするかを見極め、職員間の意見も聴きながら他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や来訪時には普段の様子を報告し一緒に本人を支えられるよう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で外出制限されているが、電話や窓越しの面会を支援したり、馴染みの美容室を利用する等、要望があれば出来る範囲で支援に努め、関係がとぎれないようにしている。	親しんだ場所や、友人家族との時間を大切に重ねられるよう支援している。お盆の墓参りや、神社の参拝等、一人ひとりの今までの関係が途切れないよう努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立しないように関わり、会話や作業が出来るように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても必要に応じて管理者やケアマネージャーが相談や支援が出来る旨を伝えている。引き続きだ事業所等との連携を図るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングやアセスメントを行い、希望や意向を全職員が把握に努めている。困難な場合は会話や表情から思いを汲み取るように努めている。	生活を支える中で、希望や思いを理解して意向に沿えるように努め、意思疎通が苦手や困難な場合でも仕草や表情から、また本人の職歴や生活史から、本人本位の生活になるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約時に本人や家族から生活歴や習慣、生活環境、これまでのサービス利用等を伺い、居宅ケアマネからの情報も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の介護日誌に日々の行動、血圧、排泄他を記録し、職員全員で現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングやアセスメントから現状の課題の変化がないか確認しケアマネージャーが介護計画を作成しサービス担当者会議を開いて話し合っている。	利用者本人の生活の質向上に向けて、全職員がどう取り組むのかを課題とし、実施可能な目標を設定し、計画作成者が介護計画を作成している。病変等が生じた場合は、現状に即して検討し、実情にあった介護計画になるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌に日々の様子や気づいたこと、ケア内容を記録し、職員間で情報共有している。その日のリーダーが介護計画の実践をチェックしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況やニーズに可能な限り対応し、受診援助や買い物代行等、柔軟な支援や多機能化の取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年は町内会行事に参加したりしていたが、現在はコロナ禍のため、交流の機会がない。出来る限り、ホーム内でのイベントで豊かな暮らしを楽しんでもらっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人及び家族の希望を尊重し納得の得られるかかりつけ医と関係を築き適切な医療が受けられるように支援している。	かかりつけ医は家族や本人の希望を優先しているが、協力医の必要性の場合もあり、いかに本人にとって適切な医療なのかを検討し、安心出来る医療体制に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長が看護師であり、日常のケアの中での変化や気づきを伝え相談し、指示を受け、利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療が受けられるように必要な情報を提供し、早期退院をめざし、病院関係者や家族との情報交換や相談に努めている。他病院との関係も良好である。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針内容を説明し、本人や家族の意向を伺っている。重度化した場合や終末期に向けて主治医からも説明していただき、本人、家族、職員、看護師間で方針を共有し、支援に取り組んでいる。	契約時に書面にて看取りの指針を説明し、同意を得ている。利用者にとって適切な対応になるよう、協力医療機関や家族と話し合いを重ね、チームとして支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回消防訓練を行っている。急変時や事故発生時には速やかに対応出来るようにマニュアルを共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防設備会社の立会いのもと、日中と夜間の想定で避難訓練を実施している。ホームの緊急連絡網には町内の方々の参加協力を頂いているが、今年度もコロナ予防のため、参加は見合わせて頂いている。	年に2回の避難訓練を、地域住民の協力を得ながら実施している。町内の緊急連絡網にも加入し、不意の災害に備えている。	自然災害に関する避難訓練内容の充実と家族、関係者への避難場所の周知を検討している。進展に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねた言葉かけをしていないか、会議時にケアの振り返りを行っている。	今の介護は本人本位であったか、と常に問う姿勢でケアに臨んでおり、言葉かけや動作、表情についても注意して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が思いを表現でき、自己決定が出来る環境作りや言葉かけを行っている。表現が困難な方にはその言動からニーズをくみ取り代替するよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のペースを大切に、体調や気持ちに配慮しながら、希望に沿うように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で着る服を決定したり、好みの化粧品をつける等の支援を行っている。2か月に1度の訪問理容で整髪してもらったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食堂の見えやすい所にメニューを貼ったり、入居者がメニューを選択できるような行事を設け、食事が楽しみなものになるように工夫している。準備はしていないが、職員と一緒に食器拭きをしてもらったりしている。	配食サービスを利用しており、栄養価やバラエティに富んだ食事を提供している。食事への職員負担の軽減は、サービスの質の向上に寄与している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を介護日誌に記録し全職員が把握している。水分の摂れない入居者はゼリーやジュースで工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの能力に応じて口腔ケアの一部介助や見守り、声かけを行って、口腔内清潔が保てるように支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握しトイレへ誘導するタイミングや声かけで失禁を少なくするように努めている。	排泄はトイレで行うことを原則とし、時間での誘導や仕草や動きも把握して、乳酸品や軽い運動も取り入れながら、自然な排泄になるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸が活発に動くような運動を取り入れ、一人ひとりの排便状態と形状を記録し、必要な場合は看護師と相談して下剤等の調整を行っている。便秘にならないよう水分にも注意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一般入浴日と特浴日を設けているが、一人一人の体調や希望により曜日や時間を変更したり、シャワー浴にするなど臨機応変に対応している。好みの湯加減でゆっくりと入浴を楽しんで頂けるよう配慮している。	普通の浴槽と特浴の利用も考慮し、入浴日を想定しながら、楽しい入浴を支援している。希望や体調を吟味すると、ほぼ毎日お風呂を楽しめる日になっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調に気を配り、十分な睡眠が取れるように日中の活動を促している。ベッドやシーツを整え、室温や湿度・乾燥等に気を配り、必要に応じて冷却剤・湯たんぽを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用・用法・用量については数多く薬の変更も度々あるため、全職員が全てを理解しているわけではない。都度確認しながら情報共有し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意なことを把握して家事作業の手伝いや片付け等、役割を持ったり、力を発揮し張り合いの持てる暮らしが出来るように支援している。またレクリエーションやイベント等で気分転換を図れるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出はほとんど出来ていないが、ドライブで車中から桜を見たり、中庭で育てた野菜の収穫や花への水やり等で外気に触れたり、家族数人での法事やかかりつけの美容室への家族の同行等、条件付きで外出支援している。	コロナ禍であり、外出は自粛中となっている。通例では、季節のドライブや買い物外出、外食等々、閉じこもらない介護を実践している。また、日々の散歩も天候の許す限り実施し、馴染みの関係も増え、近隣住民との会話を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持している方は少ないが、希望があれば能力を勘案し家族とも相談の上で、多少の金額は所持してもらっている。通院時の支払い等本人や家族の希望があれば、職員の見守りの元、本人に支払ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より希望があれば家族や友人に電話をかけたたり、かかってきた電話を取り次いだりしている。手紙を書くことはないが、家族からの手紙を受け取り喜ばれている入居者もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は利用者がいつも居心地よく過ごせるように関係性を考えて席を決めている。不快音を起こさないように気を配り、光・温度等の刺激に配慮し、季節を感じ取れるように飾りつけ等で工夫している。	デイルームや食堂は、窓や天窓等により明るい空間となっており、室温や日差し等も適正に保たれ、安らげる場所として機能している。居間にあるテレビの音や番組の内容にも注意し、みんなで楽しめるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士でテレビを見たりおしゃべりをしたり、パズルや塗り絵を行ったり、思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。一人になりたい時はその空間が持てるようにソファを配置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人や家族と相談して使い慣れた物や本人の好みの物、家具等を持参していただき、ベッドや家具等の配置を決めたり、居心地よく過ごせるように工夫している。	居室には、昔馴染みの家財や小物類がそれぞれの思うままの配置で置かれており、落ち着いた雰囲気を感じられ、ゆっくりと過ごせるよう工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、廊下やトイレに手すりを設置して安全に独歩が出来るようになっている。トイレや食堂、自室には表示・表札があり、混乱せずに目的の場所に行けるよう工夫している。		